

春、草花の芳香が漂う鎮魂塚と比叡山国宝殿



発行所
比叡山時報社
〒520-0116 大津市坂本本町4220
電話 077-578-0001
振替 00970-2-9732
宗教法人延暦寺事務所
定価 1部110円 年1200円

延暦寺広報

叡山講福聚教会
会報
年会費(3000円)中
に会報(比叡山時報)
購読料を含む。

令和2年比叡山から
発信する言葉
「不憚」
一々の労を惜しまず



こちらから

ご購読は

西塔釈迦堂の左奥方へ、山道を十分ほど歩くと瑠璃堂が見えてきます。室町時代に建立された現存する延暦寺最古の堂宇として護持されてきました。比叡山史上最大の犠牲者を出した織田信長の焼討ち(元亀の法難)による兵火を逃れた唯一の伽藍で、重要文化財に指定されています。

比叡山に逃げ込んだ浅井・朝倉両軍を滅ぼすため、敵対する織田信長は焼き討ちを決心したとされ、当時の様子を記す『信長公記』や『言継卿記』によれば、堂塔舎はずべて焼け落ち、犠牲者三、四千人と凄惨さを伝えていきます。

しかし家臣の羽柴秀吉は多くの僧侶や民衆を逃がし、大河ドラマ「麒麟がくる」の主人公・明智光秀も焼討ちには反対したとも伝えられています。元々は全山焼討ちではなく両軍の残党を追う目的に火を放たれたともされ、近年の調査からは焼土が全山に発掘されないことから、焼かれたのは限定的であったのではないかと推察されています。

本年は、その焼討ちによる犠牲をみてから四五〇回忌を迎えます。大河ドラマにその様子が描かれることは何かの因縁でしょうか。

比叡山国宝殿北に接する低地に「平和の塔 元亀兵乱殉難者鎮魂塚」があります。焼き討ちからの復興に尽力された多くの延暦寺伽藍を再建に導いた、慈眼大師天海大僧正三五〇回忌にあたる平成四年に建立されました。犠牲となった多くの人々の慰霊と、恩讐を超えてそれまでなされていなかった信長の鎮魂供養のために発願されたもので、「怨親平等」の想いを込め、毎年焼討ちの日の九月十二日に慰霊法要、併せて世界中の戦争、飢餓、病氣そして事故の犠牲者の霊を弔い、世界平和が祈念されています。

鎮魂塚建立を発願された故第二百五十三世山田恵諦座主祝下は「この塔を前にして仏様にどのように拜めばよいのか。『良き縁を結ばせてください』と祈るだけでよいのです」また、「因縁に気づき、それを尊ぶことは、永く続けるために大切である。ひとつの因縁ができたのに、それに気づかず通り過ぎると、気づいて用いるのでは結果は大いに違ってくるのです」とおっしゃられました。

良き縁を結ばせてもらえたと自覚できたならば、怨念の心が奥底に揺らくことはなくなり、慈悲の念が生まれ利他の働きができるようになるのでしょうか。

「平和の塔 鎮魂塚」が、私たちの不安定な心を穏やかにしてくれるような場所になるよう、変わらず祈り続けてまいります。

徳を以て怨みに報ゆれば怨み即ち尽く

御修法大法が復興後100回目の奉修

最高法儀復興に尽力した人々

自利を捨てて国(人々)のために祈る

天皇陛下からお預かりした御衣を御形代として根本中堂内の道場に奉安し、国家安寧と玉体安穩を祈願する延暦寺の最高法儀「御修法大法」が、本年は「七仏薬師大法」の秘法を以って4月4日から10日までの8日間に亘り厳修されている。同時に本年は、明治維新の神仏分離によって一旦途絶えた御修法が大正10年に復興されてよりちょうど100回の奉修を迎えた。そこで今特集では、御修法復興までの道のりと、熱意を以て復興尽力した人々を、比叡山に残された資料をもとに紹介する。

御修法大法とは

日本各所に桜の便りが、ら11日まで恒例の御修法開くる頃、総本山根本大法が勤められる。中堂では毎年4月4日か、宗祖伝教大師は、叡山、界平和、五穀豊穡、人々の

の修行者に護国の経典と護國の真言の読誦を義務づける。以来比叡山は鎮護國家の道場として世に

現在でも根本中堂にて「長日御修法」と呼ばれる本尊薬師如来の修法と護摩供、毘沙門天の秘法として護國経典の読誦が日々不断に修されている。それに対し4月4日から奉修される護國の修法は、「御修法大法」と称

され、大法は現在、「熾盛光法」「七仏薬師法」「普賢延命法」「鎮將夜叉法」の四大法が毎順次に勤められる(本年は七仏薬師法)。この他にも特別に大がかりな大法として安鎮家園法も存在する。

断絶していた御修法の復興

御修法は、江戸時代まで京都の各門跡寺院において日毎、天皇陛下のご安泰、皇座の繁栄及び國家の隆昌を祈り奉修されてきたもので、「七仏薬師法」「普賢延命法」「鎮將夜叉法」「熾盛光法」は青蓮院、「安鎮家園法」は曼殊院となるが、明治維新による神仏分離によって断絶されていた。大正元年(1912)、宗祖伝教大師一千百年の大遠征を記念して迎えるにあたり、時の天台座主第三大正世吉田源心親下が、二月三日間に亘り



昭和2年奉修時の行道。現在(上の写真)より根本中堂前大坂の幅が少し狭い



皇居まで御衣をお預かりに向かわれる吉田座主(東京駅にて)



開闢では天皇使をお迎えし、行道を組んで根本中堂へと向かい天皇の御衣が奉安される

篤信家が繋いだ法灯と法儀

国のための仕事で陰徳を積む

延暦寺の大講堂から根の。中山師は牛の供養の本中堂へと繋がる「講みならす、祀り手のいな坂」の途中には「登天満宮」の祠が建ち、そのすく下方に「牛の石像」が奉安されている。天宮の傍らだけ北野の天宮に因んだものかと思えるもそうではない。牛の石像は岡山県に本部を置く宗教団体「福田養」したものの一例である。福田養は、師の徳行は関西、特に大阪の実業家を感化し、信者の中には「東洋のピル王」と称された大日本麦酒社長長島武蔵氏を、始め、「鳥井商店(現・サントリーホールディングス株式会社)」創業者である鳥井信治郎氏(1879~1962)等が名を連ねていた。中山師は「上知令」により境内を没収され貧窮した延暦寺の「不滅の法灯」に用いた「種油」を毎月寄進された。師は毎月一斗に詰められた油を背負って登壇、その中には若き日の鳥井信治郎氏の名も記されている。

グス株式会社)創業者である鳥井信治郎氏(1879~1962)等が名を連ねていた。中山師は「上知令」により境内を没収され貧窮した延暦寺の「不滅の法灯」に用いた「種油」を毎月寄進された。師は毎月一斗に詰められた油を背負って登壇、その中には若き日の鳥井信治郎氏の名も記されている。



已講坂の牛石像



鳥井家とサントリー関係者は毎年結願の座に参列する(写真は平成7年・二宮写真館提供)

御修法と鳥井信治郎氏

吉田源心天台座主と強い縁で結ばれ、御修法の復興に力を注がれた大阪の実業家鳥井信治郎氏(1879~1962)は、鳥井信治郎氏とも親交を深めていた。



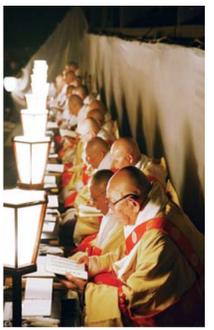
鳥井信治郎氏

鳥井氏は事業を始めたころの鳥井氏に「御祈禱を願っているのか」と尋ねた。鳥井氏は「毎月願っております」との鳥井氏の返答に鳥井氏は「それは結構だが同時に何のために祈られているのか」と再び問いかけた。「自分のためか、家のためか?」と。「自分のため、家のためならやめなさい。同じ仕事をするのなら国(人々)のために仕事をしなさい」と

天台声明が堂内に響く

御修法の詳細と本年の参勤者

法要は夕・朝・日中と三座、七日間二十一日、日中座は午前6時15分、夕座は午後2時15分、出仕者は行列して根本中堂に向かう。宗内各門跡ほか特別に選抜された計十七人の僧侶が、その中最高法儀である。寺で皇室のご安泰を祈る祈禱を始めるから、おまへんがその費用を出しなさい」と進言、鳥井氏は「これを絶やしたならばうとも神仏のご加護を受けねばならない」とまた「人々のためと言われれば、強い決意を固め、延暦寺に物心両面にわたる奉養された。これが今日まで延暦寺が御修法を続けることのできる所以である。



朝座は午前6時15分、日中座は午前10時15分、夕座は午後2時15分、出仕者は行列して根本中堂に向かう。

未来の後継者への遺産

昭和9年(1934)4月4日、元三慈恵大師(1879~1962)の御遺言を記念し、御修法復興に60年振りに「安鎮家園法」が奉修された。結願に際し、根本中堂の中心には、千年のタイムカプセルと称する「山住職」に対する講演品、当時のサントリー製品の全てが埋め込まれ、御修法執行の意義を



御衣の行列が恭しく日吉の馬場を比叡山上へと向かう

「決してお祭り事で執行後継者へのひとつの遺産として法儀を受け継がせていかねばならない。代のご祖師さまが鎮護國家のために伝えてこられたこの大法を修することによってその恩に報いられることが大切」と述べられていた。また「未来の

門跡禪智門大僧正、曼殊院門跡藤光賢大僧正、大林院今出川行雲大僧正、上野輪王寺門跡浦井正明大僧正、妙法院門跡杉谷義純大僧正、中尊寺山田俊和僧正、青蓮院門跡東伏見慈光大僧正、福正寺本清玄大僧正、毛越寺藤里明久大僧正、禪定院水尾寂芳大僧正、西法寺薄墨賢祥大僧正、長福寺三浦祐俊大僧正、伊崎寺上原行照大僧正、東光寺坂本実行僧正、森川宏映天台座主親下、毘沙門門跡藤原局長は小堀光實延暦寺僧正、奉行は金藏院小樹孝啓大僧正、三三院森文道師。